

# キャンヘルプタイランド

## ネットワーク通信

2015年11月25日発行 第71号

### 事務局便り

#### 愛知県在住の坂から

連日のように日本を訪れる外国人旅行客の話題がニュースになりますが、数年前から日本への観光ビザの発行が免除になったタイ人も、気楽に日本に遊びに来られるようになりました。タイで旅行会社を経営している友人は、40名以上の団体旅行を年に何十本と主催し、タイの旧正月などには日本へのチャーター機を飛ばすくらいです。昔はビザの関係で富裕層がターゲットでしたが、現在は公務員など安定した収入のある中間層の人たちが気楽にツアーに参加しているようです。リピーターも多くなり、若干ですが、若者の個人旅行も増加傾向にあります。少し前までの定番コースは、東京に到着し、渋谷・浅草・ディズニーランドを観光した後、箱根、御殿場アウトレット、京都、大阪、USJ を周って関西国際空港からタイへ帰国するルートでした。料金によって、途中、新幹線での移動がセットになったりします。大阪から入って東京から出る逆のルートもありますが、いずれにしても名古屋はただの通過点でした。

しかし、最近になってようやく岐阜の白川郷や高山がタイ人旅行客の注目を集め、中部国際空港から中部地方を南北に縦断するコースが認知され始めています。石川県の小松空港などは、定期運行便の数の少なさを生かして海外からのチャーター機を多く受入れているようです。東京や大阪など、メジャーな場所は避け、魅力的な観光地に直接アクセスするというのは滞在日数やお金の節約になるのでしょうか。中部地方には、伊勢神宮や上高地や立山黒部アルペンルートなど、魅力的な観光地がまだまだたくさんあります。ただ、10月のニューズウィークの記事ですが、海外からの観光客は、有名な観光地ではなく、ほかの人たちが知らないようなディープな日本を見たいようで、これからのニーズはどんどん細分化していくそうです。友人が驚くような旅行情報をソーシャルネットワークにアップすることが、これからの旅行者の目的になるでしょう。魅力的な観光地が近くにない地域でも、外国人にとって魅力的なもの（日本人には普通でも）があれば、それはそれで外国人観光客誘致の目玉になるのかもしれませんが。

僕がタイを旅行するときは基本的に友人宅にホームステイしますので、そのお返しで、タイの友人が日本に来たときは気楽に家に泊めてあげるようにしています。畳の部屋や障子・襖がとても興味深いようで、多少寒くても、和室に布団で寝るようにしてあげます。11月にもタイの友人がお坊さん二人を連れてやってきました。総勢6名のグループでしたが、お坊さんだけ特別に一部屋必要でしたので、あとの4人は隣の部屋で雑魚寝にしました。お坊さんを家に泊めるとするのは初めての経験でしたが、とても貴重な体験でした。来年1月には、希望の家を運営しているラフォー財団のタッサニーさんの娘さんが、大学の同僚と二人で名古屋に来るそうです。雪の白川郷と高山を案内してあげようと思っています。



坂 茂樹

お知らせ

～特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド発足～

上記の「タイ便り」の通り、キャンヘルプタイランドは 2015 年 11 月より特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとなりました。会の名称は代わりましたが、活動は今まで通りですので、これからも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今まで、皆様からのご寄付の入金先だった郵便振替口座の名義が「キャンヘルプタイランド」から「NPO キャンヘルプタイランド」と変更になりますのでご注意ください。

寄付金・会費のお振込みは…

＜郵便振替口座＞

口座名：NPO キャンヘルプタイランド

番 号：00280 - 2-43793

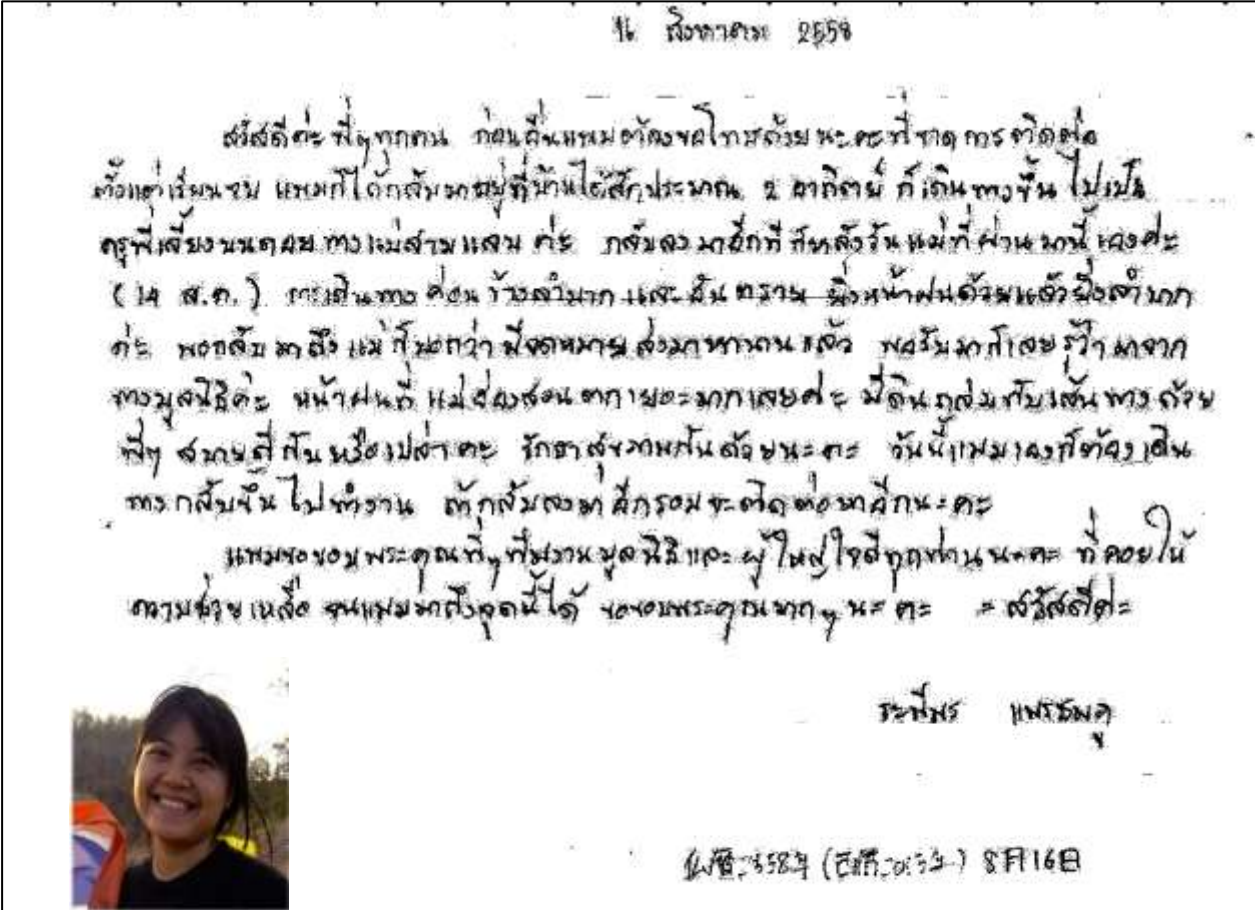
奨学金

～すみれ基金奨学生のその後～

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|   | Chutima Saisud<br>マハサラカム県出身<br>2011 年支援開始<br>2014 年 3 月に大学を卒業しました。しばらく民間企業で働きましたが、出身県の Rajabhat Mahasarakam 大学で製図工者の試験を合格して、9 月から勤務。  |   | Janetramat Pimnoi<br>ナコンパノム県出身<br>2012 年支援開始<br>2014 年 6 月に大学を卒業しました。しばらく大学の事務員をしましたが、2015 年 5 月からバンコク近郊の大手インターネット・プロバイダー会社に就職。 |
|  | Waipoj Siriwong<br>メーホンソン県出身<br>2011 年支援開始<br>2015 年 3 月に大学を卒業しました。卒業後、大学の近くのファームで勤務。   |  | Apassara Kaeokesorn<br>チェンマイ県出身<br>2013 年支援開始<br>2015 年 3 月に短大を卒業した。チェンマイの小さなホテルで勤務しながら、通信大学を受けている。                             |
|  | Rapeeporn Praechompoo<br>メーホンソン県出身<br>2013 年支援開始<br>2015 年 3 月に大学を卒業しました。その後出身県の Maesamlab 町の山の学校で就職。まだ公務員になっていませんが、自分と同じ民族の子供にタイ語を一所懸命教えている。   |   |   |
|  | Samita Tathakat<br>チェンマイ県出身<br>2014 年支援開始<br>2014 年 11 月、肺炎で入院。3 週間で退院。しばらく保養期間を置いて勉強に復活。1 月に祖父が死亡。葬式後はまた 2 週間入院。その後 facebook で勉強を続けていることを確認できたが、4 か月間まったく連絡なし。こちらから連絡しても返事なし。2015 年 5 月末、FREE 理事会で支援停止決定。その後も facebook で勉強をつづけたことを確認できたが、8 月中旬から体調を崩し、2015 年 8 月 23 日に死亡。        |   |   |
|  | Nattapan Pakpoom<br>カンチャナブリ県出身<br>2012 年支援開始<br>2015 年 5 月から 5 年生。教育実習に。6 月に警察音楽団の試験を受け、7 月末に合格。8 月 1 日付けですぐに公務員になれるため、教員勉強をやめて警察になった。担当楽器はアルトサクソフォン（高校時代で勉強した）。大学で勉強してきた 4 年間の単位を使って、さらにいくつか単位を取ったら、数学（科学）専門で大学卒業できると大学の先生が言っていたので、仕事の合間をぬって学位も取りたいと考えています。（2015 年 7 月まで支援しました。） |   |   |

～すみれ基金奨学生からの手紙～

北部メーホンソン県に住むラピポー プレションプーさんから手紙が届きました。カレン族出身ですが、タイ語をうまく話すので大学に進学できました。2015年3月に大学を卒業しました。その後出身県の Maesamlab 町の山の学校で就職し、まだ公務員になっていませんが、自分と同じ民族の子供にタイ語を一所懸命教えています。



仏曆2558年(西曆2015年)8月16日

皆様こんにちは。ご返信しておきます。わたしは卒業してから2週間だけ東京にいた後、メーサムセトの方の山で就職して働き、この間の母の日の後にまた実家に帰ってきたばかりです。山から実家までの道は険しく、特に雨季だと移動しにくいです。実家に着いたとき、母から「お前さんに手紙が届いたよ」と聞きました。手紙を見ても、こちらの団体からの手紙だとわかりました。

メーサムセトの雨季はとても雨量が多く、時々土砂崩れで道が閉ざされてしまいます。どこか皆様が元気ですか。健康大切にしてください。わたしは今日仕事に戻りたくはないです。今度また帰って来たのでご連絡します。

皆様の支援がなければわたしはここまでやってこれることができなかつたのだと思います。とても感謝しております。ありがとうございました。

ラピポー プレションプー

## 翻訳会

### ～奨学金資料翻訳会～

報告：坂 茂樹

7月の奨学金授与式で持ち帰った奨学金資料の翻訳作業を、8、9、10月の3回行いました。名古屋周辺にお住いのタイ人女性のグループ「タイ女性の会」にご協力いただき、日本人翻訳ボランティアとタイ人のペアになり、ドナーの皆様へお送りする奨学生の資料を翻訳しました。奨学生の資料には子どもたちからの手紙も添えられていて、翻訳作業はとても大変ですが、差し入れのお菓子などをつまみながら和気あいあいと作業をしました。タイ女性の会の皆様、日本人ボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。



## イベント

### ～ワールドコラボフェス参加～

報告：坂 茂樹

10月24、25日の2日間、名古屋栄オアシス広場にてワールドコラボフェスが行われ、主に愛知県内にある国際交流団体が集まり、各団体のブースにてPR活動をしました。キャンヘルプタイランドもワークキャンプの写真や絵本コンクールに応募したタイの子どもたちの創作絵本を展示し、多くの来場者にPRができました。

また、今年の夏のワークキャンプに参加された方がボランティアでブース当番を手伝ってくださり、大変感謝しております。

このイベントは毎年秋に行われますので、また来年もブースを出したいと思っています。



## おまけ

## ～奨学金授与式とワークキャンプのおまけ～

報告：坂 茂樹

○ 奨学金授与式のついでにラオスを覗いてきました。

ナコンパノムでの奨学金授与式の翌日、夕方のバンコクへ帰る飛行機まで少し時間があつたので、ラオスへ行ってみることにしました。タイ人はメコン川の渡し船で国境を越えられるようですが、その他の外国人はバスでの越境となります。宿泊したホテルから2キロほどのところにあるナコンパノムバスターミナルからタイーラオス国際友好橋を越える国際バスが運行されています。朝8時半のバスに乗り、1時間後にはラオスのターケークバスターミナルに到着します。途中にパスポートコントロールがありますが、日本人はビザなしでラオスへ入国できるようになったので、ほぼフリーパスです。タイ人のムさんはラオスの入管で日本人より少し多めの手数料を支払わないといけないうでした。

ターケークバスターミナルに到着したら、あらかじめタイのナコンパノムへ戻る国際バスの席を確保しておきます。時間までにタイへ帰れないと飛行機でバンコクへ戻れなくなります。国境の街だけあってチケット売り場などではタイ語がちゃんと通じません。帰りのバスのチケットを確保後、ワゴン車をチャーターして近くの洞窟と寺院、市場などを観光しました。洞窟はタイなどでもよく見られる石灰岩の山の洞窟で、ちゃんとガイドもしてくれます。ただ、タイ語のガイドなので、ムさんがいなかったら僕にはチンプンカンプンでした。ほんの少しの時間、街を見ただけですが、街の雰囲気やお寺の様、生活スタイル、食材、普段の衣服など、ほとんどタイと同じで、国境を越えた感じは全くしません。大きな違いは、車が右側通行なだけです。ハンドルの位置が違うので日本の中古車ではなく韓国から輸入した中古車が多く走っていました。物価もタイとほとんど変わりません。食事の料金は若干高いような気がしましたが、お皿に盛ってある量がタイの1.5倍くらいあるので、値段だけのことはあると思います。もう少し田舎のほうにも行ってみたかったのですが、滞在時間が短かったので、さすがに無理でした。次の機会があれば村の学校の様子などを視察してみたいと思います。



バスターミナルへ戻り帰りのバスを待っていると、ベトナム人が大勢同じバスを待っていました。ついさっきベトナムからのバスが到着したようです。ここでタイ行きのバスに乗り換え、商品の仕入れや出稼ぎに行ったりするのでしょう。日本人の僕にとっては陸続きの国境というものがとても面白く感じます。事前に帰りのバスのチケットを確保しておいたので無事にバスに乗れましたが、危ないところでした。チケット売り場のお姉さんの情報がなければバスに乗れないところでした。ぎゅうぎゅう詰めバスになんとか乗り込み、午後4時には無事にナコンパノムへ戻って来られました。

その後、ナコンパノムの空港へ向かい、バンコクまで戻ってきました。明日からはサケート県で久しぶりのワークキャンプが始まります。



## ○カンボジア訪問

サッターオ県でのワークキャンプの休日、校長先生に無理を言ってカンボジア観光へ連れて行ってもらいました。

午前10時頃、学校にタイの軍隊の方がお迎えに来てくれました。数台の車に分乗し、タイ軍の先導で国境へ向かいました。タイ側の国境ゲートで人数の確認を行い、そのままパスポートの提出もなしにタイを出国します。国境には小さな川がありそこに架かる橋が国と国の境目でした。車列はゆっくりと橋を渡りカンボジアへ入ります。カンボジア側ではカンボジア軍が待機してくれ、そのまま、カンボジア軍の先導で国境近くの村を目指します。国境から1キロほど東に進むと街が現れ、まず始めに市場を見学することにしました。カンボジアの市場はタイの田舎の市場に似ていますが、地面が土のままで埃っぽく、とても清潔とはいいがたい感じです。それ以外、売っているものなどはタイとほとんど変わりませ。国境に近いのでタイのお金も使えますしタイ語も通じます。



市場観光をそうそうに切り上げ、今度はカンボジアの小学校を訪問してみました。市場から国境方面へ少し戻ったところにその学校がありました。生徒数1500名の大きな学校ですが、敷地面積は100メートル四方くらいでしょうか。校庭を囲むように3つの1階建て校舎と1つの壁なし教室の建物がありました。校庭といっても地面は平らではなく凸凹で運動などをできるグラウンドにはなっていません。この教室数で1500人の子どもたちが勉強できるのかと疑問に思っていたら、午前と午後の2部制で、午前は1から3年生、午後は4から6年生が勉強しているそうです。

雰囲気は20年前のタイの田舎の小学校とそっくりで、裸足の子どもも多くいて、校庭にはごみが散乱していました。ほんの数キロ西にあるタイのバンカオディン学校とは雲泥の差です。いくら陸続きの場所でも国境ってすごいなあと感じました。校長先生や村の警察の方と話をしましたが、僕たちが日本から来たボランティアだと言うと、先方もいろいろ支援を希望している様子で、熱心に現状を話してくださいました。こちらとしても支援の必要性和しひしと感じました。



学校の視察を終え、街に戻り昼食を食べました。カンボジアでの初めての食事です。といっても、タイと同じ東南アジアの国なので、そんなに変わった料理が出てくるわけではありません。市場もタイと同じものを売っているので、材料が同じなら出来上がる料理も同じようなもので、辛い料理を選べば日本人の口にも合います。

食事のあと、国境方面へ少し戻りタイでは合法でないカジノへ行ってみました。タイ人ギャンブル好きの人がわざわざ国境を越えて遊びに来るそうです。お店に入ったのが昼間だったので他のお

客はいませんでした。一応営業時間です。中には日本製のスロットマシンやルーレットの機械が置いてあり、現金を入れて自由に遊べるようになっていました。さすがにカードゲームはまだ時間的に営業していなかったため、100 パーツ札をルーレットの機械に入れてみましたが、画面に現れる所持金の表示が300 パーツを越えてから徐々に減り始め、20 分後には0 になりました。タイの軍隊の人も、日本人参加者もそれぞれ挑戦していましたが、最終的に勝ったのは植田さんとユット先生だけでした。勝ったといっても200 から300 パーツくらいですが……。

カジノのあと、カンボジアのお店でビールを2 ケース買い込みました。タイの税金がないので、かなり安くタイ製のビールが買えます。もちろん、制限を超える量のお酒をもってタイに入国した場合、それなりの関税がかかるのですが、ビール2 ケースぐらいいは問題ないでしょう。しかも、運んだのはタイ軍の車です。

夕方には学校へ戻り、留守番をしていた先生方へいろいろ報告です。中でも、ユット先生がカジノで勝ったことが一番の話題でしたが、実は校長先生がユット先生にお金を渡してルーレットをやらせていたらしく、ユット先生は儲けたお金を校長先生へ返していました。ほんの少しだけお小遣いをもらったようですが……。校長先生はお酒もギャンブルもやらない真面目な方の方のようです。

## 〇まとめ

2015 年3月にミャンマーのタチレク、そして、この夏にラオスのターケークとカンボジアの Sampov Lun 村(発音が不明)の3か所のタイ周辺の国境の街を訪れてみましたが、どの街も活気があり東南アジアのエネルギーを感じることができました。

ミャンマーのタチレクには18年ほど前にも足を踏み入れたことがあるのですが、街も大きくなり20年間で順調に発展しているようです。軍事政権のときには日本へ入ってくる情報が少なかったのですが、徐々に民主化が進み、人・モノ・金・情報の動きが徐々に加速し、これからの発展がとても楽しみな国の一つです。

ラオスは、タイよりももっとのんびりした国のようで、国民のおおらかさは東南アジアで1番ではないでしょうか。

タイでは見かけることが少なくなったのですが、ラオスでは市場での物乞いをする子どもも多少いるので、経済的にはかなり遅れているかもしれませんが、経済発展のスピードは弊害が出るほど早くはないようです。今回は小さな国境の街を見ただけですが、首都のルアンパバンなどもぜひ見ていたいと思います。

実は、カンボジアの Sampov Lun 村には7年前にも入ったことがあります。その時はまだ国境には何もなく、タイ側には小さな軍隊の事務所があり、カンボジア側には国境の橋から1本だけ未舗装の赤土の道路がまっすぐ東へ走っているだけでした。国境でバイクタクシーを拾い、周りに何も無い地道を2キロほど東へ走るとようやく小さな村が現れる状態でした。しかし、今夏の訪問では、村は



街に大きく変わり、国境から街の中心部までぎっしりと家が立ち並び、道路も舗装され、大きな銀行までもが建っていました。カンボジアの边境の小さな村が、たった7年で見違える街に発展していたのですが、一番衝撃的だったのが、その街にある小学校の訪問でした。内戦の影響により東南アジア諸国でこの国だけが取り残された感覚です。1996年にタイのブリラム県の小学校へ初めて一ヶ月キャンプで訪問したとき以来のインパクトでした。学校は狭く、校庭にはゴミが散乱し、子どもたちの服装もまちまちで、裸足の子も多く、ちょうど今のカンボジアと20年前のタイのイサーン地方の学校がリンクした感じです。タイ-カンボジア国境の市場では、荷役の仕事をしているカンボジアの子どもが沢山いるので、就学率はかなり低いのかもかもしれません。ポルポト政権時代に知識人の大量虐殺が行われ、学校の先生も足りないようです。カンボジアで学校建設をしているNGOは沢山ありますが、ハードを造ってもソフトが追いついていない状態です。まずは、子どもたちの労働力に頼っている親たちの意識改革が必要でしょう。20数年前にハリー・レイ先生がタイのスリン県でキャンヘルプタイランドを始められた時のように、まずは、奨学金制度からスタートして徐々に教育環境を良くしていく必要があるでしょう。



### 運営委員会

(2015年9月～11月)

| 活動    | 月日  | 場所  | 内容             |
|-------|-----|-----|----------------|
| 運営委員会 | 9月  | 事務局 | NPO 設立準備、翻訳会   |
| 運営委員会 | 10月 | 事務局 | NPO 設立申請準備、翻訳会 |
| 運営委員会 | 11月 | 事務所 | 奨学金資料発送準備      |

### 運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務局に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

今回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

### 編集後記

キャンヘルプタイランドもついに特定非営利活動法人の法人格を取得しました。数年前にもNPO法人化が議題になりましたが、その時はスタッフの意思が揃わずに立ち消えになってしまいました。今回、ようやく理事の意見がまとまり、NPO法人格取得となったのですが、活動自体も今まで以上に頑張りたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.71>

発行 NPOキャンヘルプタイランド  
 発行人 西川 弘達  
 編集人 坂 茂樹  
 発行日 2015年11月25日  
 住所 〒450-0003  
 名古屋市中村区名駅南2-11-43  
 NPOステーション内  
 Tel & fax 052-566-5131  
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)  
 E-mail: canhelp@npo-jp.net  
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net